

歯周病専門医が考える保存・抜歯の基準：根分岐部病変を抱える臼歯をどうするか？

安増 一志

福岡県 安増歯科医院 副院長

講演抄録

重度の歯周疾患に罹患した歯牙を保存するか、抜歯するかという問題は、以前から大きなテーマである。現在のようにインプラント治療が予知性のあるものとして定着する以前は、特に大臼歯を喪失することは著しい咬合機能の低下を招くことであり、それを避けるために出来るだけの治療を行い、それこそ”ぎりぎりまで使う”ということが一つの治療方法であった。

しかし、大臼歯が重度歯周疾患に罹患した場合の特徴として、根分岐部病変の存在がある。これは、歯周治療の中でも極めて治療が難しいものであり、適切なメンテナンスを行うこと自体も非常に困難を伴うものである。

これまでも、多くの臨床家、研究者がこうした根分岐部病変を抱えた歯周病罹患歯をどのように治療し維持するかを、インプラント治療と比較しながら論じている。

今回は、この根分岐部病変を抱える歯牙に対する考え方を歯周病学的見地からお話させていただきたい。